

次世代につなげる森林づくり

R7.3.7 NO.55号



地域林業の発展を目指して～架線系生産システムを学ぶ～

2月28日、山形県の地域林業の担い手で構成されている「最上青年林業協力会」の皆さん（林業事業体4名、運送会社1名、金山町森林組合2名）に向けて「架線系生産システムを学ぶ」研修会を実施しました。山形県における生産システムの現状は、路網系が主流（過去には架線集材も行われていた）であり、近い将来、事業地がどんどん奥地化していくことから今のままでは、森林整備自体が困難になるのではないかと考えられたそうで、今回、本格的な架線集材現場を視察し、四国の森林施業等について学ぶことのために高知県まで来られました。（※同会は、地元の小・中学校への出前職業体験を通じて林業分野の普及拡大や担い手の確保に向けての活動を実践されています。）

【午前】 中土佐町久礼にある民有林で、実際に行われている架線集材現場を見学しました。ここは50年生のスギ・ヒノキ林分の皆伐地で、架線集材設備はエンドレスタイラー式の索張り、スパンは1,100mと長く、広大な事業地を目の当たりにし感動されている様子でした。

伐採された立木は、架線で集材され、ハーベスタによる造材、運転席がキャビンごと上下するエレベーターキャビンでのトラックへの積み込みまでの流れを見てもらうことができました。



荷下ろし確認の様子



エレベーターキャビン
クリックするとキャビン動きます

参加者からは、「1日の生産量はどれくらいか」「造材された丸太が山元での巻き立てではなく、新鮮なまま市場に搬出されているのが良い」「急峻すぎて、ここに作業道を入れるのは無理」などの声が聞かれました。また、C材D材などをバイオマス利用のため運び出しSDGsにも貢献されていることにも興味をもたれていました。



ミニ集材機操作の様子



森林施業等の説明の様子



【午後】 管理局に戻り、「難しすぎて夢に出そう」との声もありましたが、ミニチュア集材機の操作体験を行ってもらいました。皆さんに操作してもらったことで、視察だけでは十分理解できなかった各ワイヤーの動きなどの架線設備を、さらに理解することができたようでした。最後に、当局の複層林や列状間伐、丈夫で簡易な森林作業道の整備などの事例とあわせて私たちの次年度に向けた業務予定等を説明して、盛りだくさんの研修を終りました。

参加者からは「これまでの自分たちの経験を大切にしつつ、新しいものを取り入れていく柔軟さが山形県の林業を発展させるために重要であることを再認識させていただく大変有意義な時間となりました」とのうれしい感想を頂きました。

最上青年林業協力会が、地域林業の担い手として益々のご活躍されることをこの土佐の高知から応援させていただきます。

森林技術・支援センターは、今後も様々な林業の技術継承の一助となるよう積極的に取り組んでまいります。



お世話になりました。↓
先日はお忙しい中、研修の機会をいただきありがとうございます御座います。⇐
事前の準備から当日まで、丁寧にご対応いただき、心より感謝申し上げます。⇐
おかげさまで実りある研修となり大変感激しております。⇐
ミニチュア架線集材機体験いいですね～理解しやすく楽しかったです。⇐
懇親会も企画していただき有難う御座いました。大変有意義に過ごさせていただきました。⇐
四国森林管理局皆様の熱い『土佐林業魂』を受け、感化しております。⇐
高知県は山形県と相性が良いのか？帰り際、皆が帰りたくないと言っていました（笑）⇐
お世話になりました。ありがとうございました！⇐

各種試験調査・見学のお問い合わせは
四国森林管理局 森林技術・支援センター
☎ 088-821-2250
e-mail shikoku_gijyutu * maffgojp
(セキュリティ対策で@を*に置き換えています)

